

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホームひめさゆり荘2号館)

事業所番号	0692700016		
法人名	社会福祉法人いいで福祉会		
事業所名	グループホームひめさゆり荘2号館		
所在地	山形県西置賜郡飯豊町大字椿3.642		
自己評価作成日	平成21年 10月 27日	開設年月日	平成 19年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

このホームは元診療所を改装したため廊下・トイレが広く、車椅子でも十分生活できます。長く利用していただけたと思います。  
スタッフ全員が笑顔を大切にし、その人らしい生き方のために支援します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「私たちは、笑顔を大切にします」を職員は常に念頭に置きながら、いつまでもその人らしい生活を送ることができるよう、利用者一人ひとりの「思い」や「願い」を受けとめられる支援に取り組んでいます。  
元診療所を改装したホームであるため、車椅子を使用する状態になっても対応可能な「廊下の幅」や「トイレの広さ」が確保され、また、利用者のリハビリ訓練等にも活用しやすい構造となっているホームです。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成 21年 11月 26日	評価結果決定日	平成 21年 12月 15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、スタッフミーティング等を通じ理念を共有し、実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念について職員で話し合って「2号館」独自の理念を作り上げており、目につく所にも貼って、常に振り返りながら実践にもつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や催し等への見学参加、散歩等を通じ交流を図っている。	近隣施設と合同で行う夏祭りに地域の方から参加してもらったり、幼稚園の運動会をホーム利用者が見に行ったりしている。また、散歩する際に挨拶を交わすなど、地域の人たちと日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌等を通じ、理解を得よう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でサービスの実際や取組み状況を報告し、そこでの意見をスタッフミーティングで報告しサービス向上に努めている。	運営推進会議は20年8月と21年7月に、地域包括支援センター職員、民生委員、家族代表の参加により開催されており、活動や現状の報告、地域の方やボランティアの来訪等について話し合われている。また、次回の開催は21年12月17日の予定となっている。	会議で出された課題に対する取り組み、また、評価結果に対する取り組みについて、運営推進会議でモニタリングしてもらい、更なるサービスの向上に活かせるよう、会議の回数を増やし、定期的開催していく取り組みを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	確認事項等あれば随時電話連絡等行っている。	要介護認定についての相談や事故報告など、機会あるごとにホームから役場に出向き連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	夜間防犯のための施錠以外は施錠することなく、こまめな見守り、声掛けにより身体拘束は行っていない。	運営法人内で「身体拘束についての研修会」が行われており、職員全員に身体拘束をしないケアの重要性が理解されている。また、日頃の見守り支援を重視しており、落ち着かない利用者がいた場合は「寄り添うケア」を心がけ、利用者が安全に過ごせるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を通じ虐待を行わないよう話し合っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度利用者なし。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行い利用者家族の理解を得るように努めている。解約の際にはその後の生活についても相談できるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また職員にいつでも意見が言えるような良好な関係を築くように努めている。	面会や電話の際は、家族から意見を言いやすいような雰囲気作りを心がけている。また、昨年12月には「家族交流会」も開催されており、家族から出された意見をホームの運営にも反映させている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフミーティング時、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実施法人全体の中で、職員の姿勢や勤務状況の把握、給与水準、労働時間等、職場環境・条件の整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実施法人全体として研修の機会を捉え、職員の資質向上やご利用者へのサービス向上の為に研修に努めている。	運営法人内の研修委員会が中心となって年間研修計画を作成しており、認知症に関する研修や虐待に関する研修等を、職員全員が受けられるようにしている。また、職員間で情報共有ができるよう、研修内容の回覧も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者同士の勉強会等に参加し、サービスの質を向上させるよう取り組んでいます。	置賜地区の協議会にも加入しており、20年3月の交流会には管理者が参加し、「広報誌に関する取り組み」等の情報を得ている。その他の職員は、人員体制や勤務体制の関係から、同業者との交流が難しい状況にある。	運営法人の理解と協力も得ながら、他ホームの見学・交換研修・勉強会等、管理者や職員が同業者と交流できる機会を徐々に増やしていき、それらの交流で得られた気づきや情報などを、自らのケアにも活かされるよう期待したい。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーからの情報を参考に、本人と直接面接を行い、困っていること不安なことをよく聞くように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	希望を受けて時から種々の相談に応じている。家族間での思いと本人の思いをそれぞれ大切に受けとめるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接により利用者の状況を把握し必要な支援を考え必要であれば他のサービスの紹介も行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、茶碗拭き等できることを一緒に行いながら昔の話を聞いたり、お年寄りの知恵を聞いたりし共に過ごす時間を大切にしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話、面会時等家族からの訴え、思いを聞き本人と一緒に支えていくように努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ、バスハイク時などなじみの場所(自宅等)を訪れたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	憩いの場として食堂を利用しそこで集まり会話等かわりを深めてもらっている。食事の際には台拭きをしてくれる利用者に他の利用者が「ありがとう」の感謝の言葉を掛けるなど支えあいながら生活している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に移られた方などには面会に行ったり、情報提供をしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の方々なので自分から希望の訴えはなかなか出来ないが、日々の生活の中で意向の把握に努め、本人本位の検討をしている。	利用者から思いや意向を伝えてくることは少ないが、生活の中での会話、表情、仕草などから、一人ひとりの思いや意向を把握するようにしている。また、利用開始時のアセスメント表なども活用しながら、本人本位に検討されている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時家族より情報を提供してもらっている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ごとのチェック表を作り一人一人の生活リズムを尊重するようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の要望を聞き介護者全員のスタッフミーティングを行い作成している。	本人や家族の要望も取り入れながら、月1回のスタッフミーティング時の職員全員による話し合い、6ヶ月ごとの計画見直しが行われており、それぞれの気付きやアイデアを反映させ、現状に即した介護計画が作成されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、ケース記録に個別に残し情報を共有している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練時地区住民、近隣公共施設、消防の協力を得ながら行っている。 隣に図書館があるため散歩を兼ね利用している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を密にし、適切な医療が受けられるようにしている。 通院は家族にお願いしている。状況により訪問診療を受けている。	サービス利用開始時に協力医療機関について説明し、本人や家族の希望を確認するようにしている。また、受診は家族の付添いを基本としているが、医療機関へは書面や電話で必要な情報提供を行い、適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本体法人経営の特養看護婦と連携し、個々の利用者が適切な診療、看護を受けられるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には定期的に病院に赴き早期退院が出来るよう情報交換、相談に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は法人運営の特養への移動も含め家族と十分な話し合いを持つようにしている。	重度化や終末期に向けた取り決めは今のところないが、利用者の状況に合わせて、家族や医療関係者とも話し合いを持ち、今後の方向性や対応方針を検討しながら情報を共有するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より救命講習を受けている。必要に応じて法人特養看護師より指導を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣公共施設と公共施設防災協議会を設置し、町、消防、地区住民と協力し避難訓練を行っている。	消防署の指導も受けながら、近隣の施設同士が交互に火元となる想定で訓練を行っており、避難訓練は6月に、夜間想定で訓練が10月に実施され、反省点についての話し合いもなされている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った声掛け、尊厳を大切にした対応を心がけている。	利用者一人ひとりに合わせた声掛けや支援を行うようにしており、ミーティング等でも職員同士による振り返りが行われている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ること、出来ないこと、少し援助すれば出来ること等一人一人の力に合わせて自分で決める場面を作り自己決定を尊重した係わりを大切にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、特に日課は決めずその人のペース、希望に沿うように対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の方にその人の好みの服を用意してもらい、おしゃれ、身だしなみに配慮している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ってもらったり、後片付けをしてもらったりしている。 職員も一緒にテーブルで同じ食事をしている。 誕生食など各自の好みのものを聞き提供している。	利用者の状況に配慮しながら、野菜の下ごしらえや茶碗拭きなどを手伝ってもらっている。また、屋外で弁当を食べたり、利用者の好みのものを献立に取り入れるなど、食事が楽しみになるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、粥、刻み食等その人に合わせた食事を提供し、食事量、水分確保には十分配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、ほうじ茶によるうがい、入れ歯の洗浄等により対応している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しそれぞれの排泄パターンを把握しその人に合ったトイレ誘導等を行っている。	排泄チェック表も活用しながら、できるだけオムツを使用せずにトイレで排泄できるよう、誘導等の支援が行われている。また、排泄について記録に残すことにより、「病気に対する気付き」にもつなげている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表により排便状況を確認して対応している。散歩等の機会を多く持ち体を動かすことで自然排便に心掛けている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上の入浴を実施し、出来るだけ希望に沿うように入浴を実施している。	毎朝の検温や血圧測定等の際に、入浴の希望を確認しており、入浴拒否が見られた場合でも、入浴日の変更やタイミングに合わせた声かけ等により、週2回は入浴してもらえるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が居室で自由に休息を取ったり、ソファ等で居眠りをしたり自由に過ごしてもらっている。出来るだけ日中活動的に過ごし夜安眠できるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとに服薬明細書を整理し、その用法用量について確認している。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力に応じて掃除、茶碗拭き、洗濯物たたみ等自分の役割として行ってもらっている。定期的にドライブ、バスハイク等外出の機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の機会を多く持つようになっている。買い物、ドライブ等外出の機会を持っている。通院時等家族に自宅やちょっとしたドライブ等協力してもらっている。	散歩、買い物、ドライブ、お弁当を屋外で食べるなど、戸外に出かけられる機会をできるだけ多く設けるようになっている。また、季節の花を見に出かけるバスハイクなども取り入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は持たないことにしているが、希望者には施設管理で必要時お金を使ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話が出来るようにしている。手紙の事例はないが、毎月近況報告を写真を添えて家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる花を飾ったり、利用者と職員で作った手作りの飾り物等を飾ったりし、心地よく過ごせるよう努めている。	利用者が集う食堂には「季節に合わせた飾り付け」や「家族が持ってきてくれた花々」があり、ホームの中においても季節を感じられるようにしている。また、温・湿度計が所々にあり、快適さや健康面についても配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	憩いの場として食堂を提供し、廊下にも椅子、テーブルを置き一人一人が思いどおりに過ごせるようにしている。食堂には畳の場所もあり横になってくつろぐことも出来る。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒など大きなものを持ち込んでいる人はいないが、家族の写真を飾ったり、自分で作った短歌を書いた色紙を飾ったり自分の時間が過ごせるようにしている。	家族の写真、自分で折った折り紙、本、書道など、本人の好みや趣味を尊重した品々が持ち込まれ、また、希望する飾り付けや物品の配置にも配慮した、居心地良く過ごせる居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには大きめのマークを付けたり、ドアを居室のものとは異なった物にし、認識しやすいようにしている。必要な方には居室入り口に立体的な表札をつけ自分の居室がわかるようにしている。			